

単元名 生きものと 友だち

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 友達と一緒に生き物の世話をしながら、その成長の喜びを味わい、生き物も自分たちと同じように成長していることに気付くことができる。
- (2) 生き物のすみやすい環境を考えて世話をしたり、分からないことを人に相談したりしながら、自分たちで工夫して活動することができる。
- (3) いろいろな生き物の世話をしたり育てたりする活動を通して、生き物が自分たちと同じように生命をもっていることに気付き、大切に扱おうとする。

標準的な展開例

02060103_001

【準備等】飼育ケース、網、餌、虫眼鏡、生き物の図鑑、校区地図、記録カード（生きものはっ見カード）
I C T機器

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 生き物を見付けたり、捕まえたりした経験を話し合い、生き物を探しに行く場所を決め、単元の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生き物を見付けたり、捕まえたりした経験を話し合い、生き物を探しに行く場所を決め、単元の見通しをもつ。 ○どこにどんな生き物がいたか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・町たんけんで、チョウを見付けました。 ・石やブロックの下に、ダンゴムシがいました。 <p>★生き物を探す作戦を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○探しに行く計画を立てる。 <ul style="list-style-type: none"> 《探しに行く場所》 <ul style="list-style-type: none"> ・校庭 …ダンゴムシ ・畑 …モンシロチョウ ・観察池…ヤゴ ・田んぼ…オタマジャクシ ・公園 …アゲハ、クワガタムシ 《捕まえる方法》 <ul style="list-style-type: none"> ・網 《用意する物》 <ul style="list-style-type: none"> ・虫を入れる袋や入れ物、飼育ケース、虫とり網、長靴 <p>2～3 生き物のとり方を工夫して、生き物を捕まえる。</p> <p>★生き物を探しに行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生き物探しのルールや約束を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・探検前、後は手洗い、うがいをする。 ・交通ルールを守る。 ・危険な場所に入らない。 ・ムカデ、スズメバチ、セアカゴケグモ、ヒアリ、チャドクガなど、危険な虫に触らない。 ・生き物のすみかを荒らさない。 ○生き物を探しに行く。 <p>○生き物のすみかと餌を整える。</p> <p>○生き物を捕まえて、気付いたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ダンゴムシ…〇〇さんが言っていたとおり、石の下にいました。触ると丸くなるから、捕まえやすかったです。 ・バッタは土のところではなくて、草むらにいました。草を食べるのだと思います。 </p> <p>○生き物を捕まえたことを振り返り、気付いたことを記録カードに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんに教えてもらったミカンの木で、アゲハの幼虫を見付けました。この葉っぱが好きなのかな。名前も </p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元前から、意識的に生き物のことを話題にしたり、生き物の本を読み聞かせしたりして、児童の興味や関心を高めておく。 ・飼育経験、アレルギーの有無、生き物への苦手意識など、児童一人一人の実態を把握しておく。 ・町探検で使用した校区地図を「生き物マップ」として再利用し、探すときの見通しをもたせる。また、再利用することで町探検とは違う視点から地域の特徴に気付かせたい。 ・地域の人や保護者など、生き物に詳しい人への協力を依頼してもよい。 ・グループで話し合いながら計画を立てさせるとよい。 ・学校の実態に合わせ、校庭で活動可能な場合はそのように計画を立ててもよい。 <p>【評】生き物を捕まえる計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、うがいなどの衛生面や、安全、ルールやマナーについての指導を徹底する。 <ul style="list-style-type: none"> ・採集が苦手な児童については、得意な児童に手伝ってもらったり、助言をもらったりして生き物に触れ合えるようにする。 ・デジタルカメラなどのI C T機器を用い、生き物の様子を写しておくとうい。 ・簡単なすみかや餌を用意させ、飼い続けることへの意欲をもたせる。 ・児童が飼いたい生き物の飼育ができるように支援するが、教室での飼育が難しいと思われる生き物を選んだ場合は、飼育するか再度考える時間を与える。 ・今後のすみか作りや世話の方法を考える手立てとして、どこで見付けたか、どのようにして捕まえたか、何を食べていたかなど、視点を与えて発表させるとよい。 ・「見付ける、比べる、たとえる」などについては、自然に表現できるよう繰り返し指導したい。 ・生き物が生息している場所を比べて発言する児童を称賛し、生き物にも種類によってすみかが違うことに気付かせたい。 ・児童が日常的に関われる場所で飼ったり、名前を付けさせたりなどして、親しみや愛着をもって世話を続けられるようにする。 <p>【評】生き物を捕まえる活動を通して「知識・</p>

- 付けました。大切に世話をしたいです。
4 生き物を飼い続けるために必要な世話の仕方を考える。
★生き物が喜ぶすみかを作ろう

- 世話の仕方やすみかを考え、話し合う。

《餌》

- ・いろいろな種類の物を置いて、試してみる。

《すみか》

- ・石や葉など、隠れる場所をつくる。

《世話の仕方》

- ・あまり触ってはいけない。
- ・霧吹きで時々水をかける。

- 考えた方法で、すみかを作り直したり、餌を与えたりして工夫する。

- 分かったことを記録カードを書く。

- ・捕まえたところの土を触ってみたら、じめじめしていました。住んでいるところと同じように、土を湿らせてあげようと思います。

- 5～6 生き物の世話をし、気付いたことや感じたことを伝え合う。

- ★生き物の不思議を見付けよう

- 生き物の変化や成長の様子について気付いたことを記録カードに書く。

ダンゴムシ

《体》

- ・足は14本
- ・体長13ミリメートル

《動き》

- ・触ると丸くなる。

《すみか》

- ・落ち葉の下に隠れている。

《世話をし変った、分かったこと》

- ・指に乗せても落ちないで歩き続ける。
- ・餌は落ち葉を食べる。
- ・脱皮する。

- 気付いたことを話し合う。

- ・わたしのダンゴムシは、脱皮をするときは、半分ずつ皮を脱ぎます。〇〇さんのオタマジャクシは、大きくなるとだんだん色が変わっていました。

- 7～9 これまでの活動を振り返り、今後飼い続けるか考える

- 自分たちが大切に育ててきた生き物について、誰にどんなことを、どんな方法で伝えたいか考える。

- ★大発見をみんなに伝えよう

- 今までの記録カードを基に、発表の準備を行う。

- 「生き物大発見」の発表会をする。

技能「思考・判断・表現」を評価する。

- ・自分なりに試行錯誤しながら生き物の世話をすることができるように、生き物の図鑑や本を掲示したり、ICT機器を利用したりするなど、学習環境を整える。
 - ・簡単なすみかを作り飼育する活動を通して、疑問に思ったり困ったりしている児童がいる場合、その児童の思いを全体へ問いかけ、飼育方法を考えさせたい。
 - ・生き物が死んでしまった場合には、その死にきちんと向き合わせ、どんな生き物にも命があることを理解させる。また、死んでしまった原因を考えさせ、飼育方法を見直すきっかけとする。
 - ・自分の作ったすみかが生き物にとってどんな住み心地なのか、生き物の立場に立って考えさせるようにする。
 - ・P.62～63「ものしりノート」や図鑑、本で調べたことを活用し、それぞれの生き物に合ったすみかや世話について考えさせる。
 - ・同じ生き物を世話している児童同士でグループを作り、すみかや餌を比べたり、教え合ったりできるようにする。
 - ・本来の生育環境に近づけたり、生き物に合った世話をしたりする必要があることに気付かせたい。
 - ・生き物を捕まえたところへ再度行くなどして生き物がすみやすい環境について調べ、環境を大切にする心を育てたい。
- 【評】生き物に適した餌やすみかを考える活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・生活科の時間だけでなく、休み時間などにも常時観察や世話ができるようにし、生き物の変化や成長についての気付きを促す。
- ・自主的に生き物の観察ができるように、児童の手の届く場所に虫眼鏡や観察カードを置いておく。
- ・記録カードには、左記のように生き物の特徴を示したり、諸感覚ごとに分けたりと視点を示すとよい。
- ・虫眼鏡を使い、生き物の様子をより詳しく見付けさせる。
- ・観察する際は、五感カードを提示し、諸感覚を使って観察させるようにする。また、P.108～P.109「見る」を参考にさせる。
- ・今までの活動や気付きを振り返ることができるよう、写真や記録カードを掲示しておく

- ・見付けた変化や成長の様子を、友達と表現し合い、振り返ることで、身の回りの様々な生き物に対して進んで関わろうとする気持ちを高めさせたい。

【評】生き物の世話をしながら、その様子を観察する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・発表する方法については、国語科と関連させたり、P.115「はっぴょうする」を参考にしたりする。

- ・発表の際は、書画カメラ等のICT機器を使って実物を大きく見せたり、今までの記録を写真に収めたものをTVに映したりするなど児童の思いが聞き手に伝わるようにする。
- ・生き物のことを考えて、継続的に飼育するこ

・わたしのまるちゃんは、昼にあまり動きません。調べてみると、ダンゴムシは夜行性ということが分かりました。だから、落ち葉をかぶせて隠れるようにしました。まるちゃんはお腹にたくさんの卵みたいなものがありました。しばらくすると、白くて小さな赤ちゃんがたくさん生まれました。

・〇〇さんが飼い方を教えてくれたから、いろいろな発見ができました。

○これからも飼い続けるか話し合う。

・トンボになったら、ヤゴを見つけた池に戻してあげようと思います。

・ずっと一緒にいたいから、これからも飼い続けようと思います。

とができるようになった自分や友達のよさに気付かせる。

・育て続けて観察を続けるか、元のすみかに返してやるなど、今後の飼育活動については児童の思いを第一に考えるようにする。

【評】世話をしてきた生き物についてまとめ、表現する活動を通して「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

・児童一人一人が責任をもって継続的に世話をし、繰り返し関わる過程で生命あるものを大切にする心を育む。今回の改訂では、「働きかける」という文言が新たに加わった。生き物本来の生育環境に目を向け、よりよい成長を願って世話の仕方を考えたり、振り返ったりすることである。生き物と関わる継続的な学習活動を設定することで、生命をもって生きていることや、世話等を頑張った自分への成長にも気付かせたい。

・飼育に当たっては、管理や繁殖、施設や環境などについて配慮する必要がある。休日や長期休業中の世話なども組織的に行い、児童や教職員、保護者などによる連携した取組が期待される。また、地域の自然環境や生態系の破壊につながらないように、外来生物等の取扱いには十分配慮しなければならない。活動前後には、必ず手洗い、うがいなどをする習慣を付け、感染症などの病気の予防に努めることも大切である。児童のアレルギーなどについても、事前に保護者に尋ねるなどして十分な対応を考えておく必要がある。

・町探検の学習を1学期にまとめて行う場合は、本単元を秋に行ってもよい。その際、取り扱う生き物は季節に合わせる必要がある。